



季節の田んぼ園

コンセプト

人と自然とを家族ぐるみで近づける、これを可能にするのが農業であり、農業を通して子供たちが

- ・自ら作物を作り、食への感謝の気持ちを持つようになる
- ・多くの人と交流することにより協調性のある人間になる
- ・身近に自然があることで季節のサイクルを感じる

ことができるようになる住宅環境をつくる。

このコンセプトに対する答えが

- ・住宅地への水田の導入
- ・共同作業、交流スペースの確保
- ・あぜ道の存在、自然の変化、季節のイベント等

であると考える。

ダイアグラム

この敷地一帯にはかつて水田が広がっていた。新たに道を通し、区画を再編成するにあたり当時の水田の区割りとは現在の住宅街の区割りを合わせて考えることによって、子育てと住宅街にうまく馴染む現代版の水田を提案する。

この新たな区割りに基づき、住戸や水田を配置する。各々に一つ水田が配置されるよう敷地を6つのグループに分ける。

保育園について

あぜ道と水田の広がるこの住宅地に溶け込む自然にふれる保育園を提案する。保育園の敷地の中に、水田を設けることで子供と自然との距離が近くなる。保育園を地域に開いたものとするために、保育園北部の建物の1階を農具置き場といったような地域の倉庫として活用し、2階を集会場として地域住民に開放する。

保育園をあぜ道によって南北に分断されるように配置することによって、その道を通る地域住民が園内を眺めることができる。

あえて大きな屋外遊技場を園内に設けなかったことにより、園児たちのあぜ道散歩が教育の中に職業に取り込まれ、自然と触れ合いながら四季を感じ取ってほしい。

交流について

敷地全体のスケールでは、あぜ道と東西に1か所ずつある広場が主たる交流の場所となる。日常的には子供の遊び場や立ち話の場所となる。広場は『花見の会』『納涼祭』『収穫祭』『餅つき大会』のような季節のイベントの際には人々が集まるための場所となる。

外区からの道と、幅の違う2種類のあぜ道の3種のどの道に面するかによって住宅のファサードの特徴を異なるものとし、面する道が細い物となるにつれ交流が生まれやすいファサードをもつ住宅を提案する。

細いあぜ道に面する方向には住宅の土間から外にビニールハウスを張り出すことができるようになっており、人が集まる時などに農地の雰囲気や雑草を壊すことなく、セミパブリックな空間の拡張が可能となる。



